

長内稔さんの思い出

栗倉 輝彦

長内 稔さんのご経歴は次のとおりである。

昭28年3月 北海道大学水産学部増殖学科卒業

昭28年5月 北海道立水産孵化場事業課勤務

昭32年10月 同 森養鱒場勤務

昭35年7月 同 調査課生物係勤務

昭39年4月 同 調査課生物係長

昭49年5月 同 調査研究部環境生物科長

昭53年8月 同 増毛支場長

昭57年4月 同 増殖部長

昭59年5月 同 副場長

平成2年5月～7年3月 札幌市豊平川さけ科学館館長

平成4年12月～12年12月 北海道内水面管理委員会委員

平成11年4月～13年3月 札幌科学技術専門学校非常勤講師

私は昭和33年に水産学部を卒業したので、長内さんの5年後輩である。当時、道立だった室蘭水族館に勤務したが、昭和37年度から室蘭市に移管されることになり、昭和36年11月に道立水産孵化場に転勤になった。

当時は、水産孵化場の場長はさけます・ふ化場長が兼務しており、調査課は、江口弘さんが課長で、大屋善延さん、吉住喜好さん、長内稔さん、寺尾俊郎さんおよび田口キヨさんの6名に小生が加わって7名体制になった。

私はこの年の4月、25才で結婚し、水産孵化場に転勤になったが、長内さんは前の年、森養鱒場から本場に転勤になり、31才になっておられた。

転勤直後から3年間、札幌市中央区南6条西16丁目にあった公宅に入った。この公宅は一軒家の1階と2階に2家族が入る様式で、玄関、風呂およびトイレは共用であった。当初は事業課の米川年三さんが1階で、私達が2階であったが、昭和37年に米川さんが中の島の公宅に移られ、1階に長内さんご家族がやってこられた。

当時の長内さんのご家族は、奥様のヒデさん、長女の久恵さん、ルミ子さんの4人家族で、久恵さんが5才くらいだったと思うが、トランプの「神経衰弱」が強く、いつも小生が負けていたが、階段を登るとすぐ我が家に来れたので、「叔父さん、また、「神経衰弱」をやろう」とよく誘われた。



写真1 昭和36年11月、転勤直後に行われた荒井・三原場長の歓送迎会 長内さん(31才)は後列左から7人目



写真2 昭和44年10月大阪府枚方市で開催された全国河川湖沼養殖研究会で、左から3人目が長内さん(39才)



写真3 昭和48年1月調査課新年会 長内さん(43才)：前列左から4人目

長内さんご家族と一緒にいる時、久恵さんが法定伝染病（病名は記憶にない）にかかり、隔離病棟に入ることになった。長内さんのお母様が付き添われたが、山菜採りが1シーズンできなかったそうである。

保健所の人々が来て公宅を消毒されたことが鮮明に記憶に残っている。

公宅から中の島までの通勤は、自転車で通ったが、勤務先でお酒を飲むようなことがあると、長内さんと、けっこ



写真4 昭和53年 会議室での会食
(中央：長内さん48才)

うめいてい運転をしながら帰り、途中の居酒屋でご馳走になったこともあった。

長内さんご家族が中の島に移られた後、私達は1階に移り、さけます・ふ化場の橋本進さんが2階に入った。この公宅で、長男と長女が生まれ、東京オリンピックのあった昭和39年11月、中の島の公宅に移った。

長内さんは森養鱒場3年、増毛支場4年の勤務をされているが、私も養鱒場から支場へ変わった森に3年、増毛支場に4年勤務したが、森は家族と共に、また、増毛は単身赴任をしたのも同じであった。小生が增毛支場長をしていた時、当時副場長であった長内さんから電話があり、新規採用の中島美由紀（旧姓面）さんを配置する知らせがあった。小生は支場勤務には女性は無理で、男性を配置するように要望した。早速、「昨年、男女雇用機会均等法という法律が出来たことを知っているか！」と聞かれた。女性を差別することは法律違反になるので、了承したが、4月に赴任した中島さんを見て、驚いた。働きぶりは男性と全く変わらなかったのである。



写真5 昭和62年 小林哲夫さん退職記念会（長内さん前列左から2人目：58才）



写真6 平成3年 黒龍江省王水産局長と記念撮影 左から5人目：長内さん (61才)、同6人目奥様、同3人目王水産局長

長内さんは、研究面では、サケマスの増養殖技術、淡水魚類の生態、湖沼・ダム湖の浮遊生物の分類、湖沼・ダム湖の生産力および利用などに関する調査研究に携わってこられた。

水産孵化場時代の研究対象は私と異なっていたが、第二の職場の業務では、長内さんが研究対象にしてきた共通の内容を担当したこともあった。また、平成11年に札幌科学技術専門学校海洋生物学科から依頼された「魚病学」の講義は、長内さんをお願いして、やっていただいた。

中国黒龍江省と北海道の「サケ・マスの養殖技術の交流」が昭和59年から開始され、水産孵化場が担当してきた。専門家の派遣は昭和60年から開始されたが、当時、副場長であった長内さんが昭和60年、61年および62年の3年間継続して派遣されている。小生も平成3年に派遣され、平成5年には北海道・黒龍江省・アルバータ州の定期協議会がハルビンで開催され、出席する機会があった。

このような交流がきっかけとなったと伺っているが、長女の久恵さんが黒龍江大学に留学されている。

長内さんご家族にとって、中国黒龍江省は縁の深いと

ころであり、小生もその一端を伺わせていただいた。

南6条西16丁目の公宅で、小さかった、久恵さんとトランプの「神経衰弱」をやったことが懐かしく思い出される。あれから約50年が経過した。

長内さんが退職された2年後に、黒龍江省の水産局長が来道され、ホテルのフロントで記念撮影した写真が残っていた。この後、千歳空港までお送りした記憶があるが、詳しいことは思い出せない。

2010年10月25日、長内 稔さんは、「多臓器不全」で、ご逝去された。

20代からの長いお付き合いであったが、心が温く、包容力のある方であった。色々とお世話になったことに感謝しつつ、ご冥福をお祈りする。

(あわくらてるひこ：元場長)